

手広中学生30人が脱穀を体験

広町緑地から1キロほど離れた鎌倉市立手広中学校から10月22日午後、ふれあい体験学習で田んぼ作業を選んだ生徒30人が訪れ、はさ（稲架け）に架けて干してある稲の脱穀をしました。



V字型の金属を打ちこんだ木製のドラムを、ガソリン・エンジンで回し、そこに稲束を差し込んで、籾を稲藁から分離するのが、脱穀作業です。稲束をしっかり持っていないと、束がドラムに巻き込まれます。内藤登喜彦さんが模範を示しながら、生徒たちに要領を教えました。

脱穀の前後に、はさから稲束を外し運ぶ、脱穀する人に稲束を手渡す、脱穀機から出る籾の重さを測りながら紙袋に詰める、やはり脱穀機から出る藁屑をガラ袋に詰める、籾が取れた藁束をリレー式に運んで積み上げる——といった工程があります。

それらの中には、地味で、面白みの少ない工程もありますが、生徒たちは自主的に交替しながら、各工程をこなしました。

できた籾120キロ

脱穀作業は1時前から始まり、2時半すぎに終了したときには、籾を14～15キロずつ詰めた紙袋が8つ、計約120キロの籾ができました。田んぼ7アール余りの収穫のざっと3分の1の量です。

作業の間に、自主保育グループ「でんでんむし」の母親たちが、去年の収穫米を大型の炊飯器で炊き、おにぎりを作ってくれました。大皿2枚にタクアンを添え、田んぼに運ばれた100個のおにぎりが、たちまち30人の胃袋に消えました。

水辺の生き物観察を選んだ生徒20人も緑地に来て、御所川沿いに観察をしました。この生徒たちにも、おにぎりが振る舞われました。



広町田んぼの会